

# 福生青年会議所

JCI  
広報誌

## FUSSA EXPRESS

2014年  
4・5月号



### INDEX

- 「こいのぼり祭り」レポート①
- 清掃活動レポート①
- 「福生を知って好きになろう」レポート②
- アカデミー研修レポート②
- 7月例会「戦争体験」のご案内③
- 会員募集中!!③
- 「地域に光る地上の星★」③
- 編集後記③

青年会議所とは?……青年会議所(通称JC)は、「明るい豊かな社会を創りあげる」ため、志ある若者が相集い、主体的に多様な活動を行うところです。現在、JCは世界中に存在し、日本では全国711の地域に約4万人の現役メンバーが在籍しています。福生青年会議所は、1978年の発足以来、福生市、羽村市、瑞穂町の2市1町をエリアに活動しています。

**会員募集中!!**→くわしくは裏表紙を御覧ください。

# 第504回4月例会 「花と水と空、羽村こいのぼり祭」

去る4月19日、20日の2日間にわたり福生青年会議所4月例会「花と水と空、羽村こいのぼり祭」を開催しました。

地域住民有志からの寄付や児童施設等の協力により、当日は実に150匹以上の鯉のぼりが悠々と風を泳ぐ壮大な光景が羽村の空に広がりました。

多くの方に訪れていただき、鯉のぼりを見上げるカップルやご家族連れが楽しげに腰かけ、堤防の上を埋め尽くす様子には、目頭が熱くなりました。

青年会議所だからこそ可能な「社会開発」を1つ実現できたものと自負しております

しかし、総務広報委員会をはじめ福生青年会議所メンバーはまだまだ満足しておりません。これは、スタートに過ぎないのです。今後も地域の皆様とともに、多くの方に喜ばれ、ともに成長を果たせる「まちづくり」を継続し、進化していく所存です。この度は誠にありがとうございました。

総務広報委員会 委員長 伊藤章裕



## 清掃活動について

福生青年会議所では、毎月最終日曜日、まちの清掃活動を行っています。この清掃活動は昨年からは継続しているもので、目的として次の3つの柱があります。

- 一、福生青年会議所メンバー相互の絆を深めること
- 二、福生青年会議所の存在、活動を地域の方々に知っていただくこと
- 三、地域の多様な人・団体との交流・協働による地域貢献の機会として、JC運動の輪を広げること。

4月27日(日)の清掃活動では、少年サッカーチーム「GONA」のメンバーとともに、4月例会の会場でもあったはむらチューリップまつりの会場を清掃しました。爛漫と花咲く多摩川の川辺を、「未来の青年」たちと楽しく活動することができ、とても嬉しく、たのもしく感じました。

5月25日(日)の清掃活動は、福生駅の駅前繁華街周辺で行いました。今後、この地域で飲食店を営む方々との協働も予定しています。

今後とも、多くの方との交流、協働の機会として、継続、進化する活動展開を志しています。会員、非会員問わず、皆様のご参加ご協力をお願い申し上げます。

総務広報委員会 副委員長 湯澤貴勇



# 第 505 回5月例会 「福生を知って 福生をもっと好きになろう」 ～旧赤線地区で生きることから学ぶ地域史～

5月8日(木)、福生青年会議所5月例会「福生を知って福生をもっと好きになろう」～旧赤線地区で生きることから学ぶ地域史～を開催いたしました。当間順子さんを講師に迎え、福生駅前の旧赤線地域の繁華街の歴史についてご講話いただきました。いささかデリケートな内容を含む地域の歴史に真摯に向き合い、この地域の過去、現在を理解した上で、未来に向けた青年会議所運動を見つめ直そうというものです。

後半では、事前に取材したビデオで福生に生きる人々の声や思いを共有することができました。横田基地との福生の街との関わり、変遷が分かり、この地域の歴史を知ることは今後この区域の問題点と照らし合わせた運動を行う際に必要になると確信しました。

今回は、委員会メンバー丸となって各方面に働きかけたことで、当初の目的に合った大変有意義な事業となったものと存じます。地域の皆様にも福生青年会議所の運動を理解していただく機会となりました。

当間講師からは、福生青年会議所に対して地域社会や自治体との架け橋役としての期待を込めたお声をいただきました。

地域コミュニティ委員会は今後も各方面に福生青年会議所の運動を発信してまいります。

地域コミュニティ委員会 委員 田邊和英

## 東京ブロック アカデミー研修委員会 宿泊研修事業のご報告

5月10日(土)、11日(日)、2日間もわたり日本青年会議所 東京ブロック協議会アカデミー研修委員会の宿泊研修事業～希望への一歩、「結」から「絆」へ～が実施されました。

この研修は、福島ブロック協議会との協働事業として行われました。未だ原発事故の影響色濃い福島で、現地のメンバーや住民の方々と交流し、これからの福島、東京、日本の未来について、ともに考え、語り合い、協働することで、この「新しい時代」の希望を模索しようというものです。

福生青年会議所からは、五島、堂西が参加しました。2日間の研修を通じ、改めて「当たり前なものなどないのだ」との思いに胸が奮えるようでした。日常に対する深い感謝の念を忘れず、human personality を磨き、地域に、日本に貢献し、明るい豊かな社会づくりを実現する人材となろうと決意を新たにいたしました。

総務広報委員会 運営幹事 堂西 利弥





# 今こそ親子で聞こう!

## ～戦争体験談から平和について考える～

日時:平成26年7月10日(木) 18:00～

会場:羽村市コミュニティセンター(羽村市緑ヶ丘 5-2-6)

# 新入会員募集中!!

★青年会議所は20歳～40歳の「品格ある青年経済人」であればどなたでも入会できます。

★福生青年会議所では、**福生市・羽村市・瑞穂町**の2市1町およびその近隣(青梅市・あきる野市・昭島市・武蔵村山市・立川市・入間市等々)に在勤、在住の方の入会を募集しています。

★例会などイベントの参加、見学、お問合せ、**大歓迎。お気軽に!**



「market village もりにわ」  
■住所 入間市宮寺 2247-1  
tel.04-2941-4937  
(開設準備室)

9月に新規オープンを予定している「マーケットヴィレッジもりにわ」の事業説明会にお邪魔した。「もりにわ」の運営を担う株式会社コロットの代表取締役峯岸祐高社長は、三十二歳の青年実業家。所沢で祖父母の残した古民家を活かし、農家民宿の経営からビジネスをスタートさせた。ワークシヨップや体験型のコンテンツを取り入れ、さらには農産物の流通やコミュニティ振興の事業にも取り組んでいる。一貫しているのは、地域の価値を再創造すること。生産者の思いに耳を傾け、その仕事に直に触れ、それを消費者に地域社会に届ける橋渡しをする。「地域社会が元気になれば、日本が元気になる。地域資源の価値の再創造は、日本の再創造です」高い志を熱く語りながらも、生産者に寄り添う姿勢は実に柔軟で真摯なものを感じた。



地域に光る

地上の星★

### ◆編集後記◆

地域活性化センターの土日集中セミナーに参加した。講師は東京農大の木村俊昭氏、日本JCSニアの上田博和先輩など▼改めて、率先してまちづくりを臨む上で心がけを学んだ。まずは mission と vision を明確にし、目的、目標に対するゆるぎない情熱と覚悟を自分自身の腹の底に落とし込むことだ▼vision の鍵は次世代、未来の子どもたち▼そして actor。とにかく行動する、感情や雑念にとらわれずスピード感を保って行動を重ねる。且つ、真摯に。怒の心を以って地道に信頼蓄積を重ねる▼人との接し方は戦略以上に重要。「ミニニターシヨンは手段ではなく集団のあり方そのものである。常に共感と共鳴のまちづくりを目指す▼信頼を得るには、絶えずシンブルに、透明に、スピードに。そして、超プラス思考。「超プラス思考」は単なる脳天気な楽観主義とは違う▼覚悟と情熱が前提となり、真摯さに裏打ちされた信頼の蓄積があつて初めて発揮されるゆるぎない積極性こそ超プラス思考で生きること▼こうしてまとめるといささか抽象的だが、一つずつ具体的に実践していく所存である(D)

## FUSSA EXPRESS

発行所 福生青年会議所 総務広報委員会 福生商店街協同組合会館1階  
住所 〒197-0022東京都福生市本町112-2 TEL: 042-551-6004 Email: info@fussajc.com

福生 J C で検索

検索

